

# RETAILER ACADEMY NEWS

Sep 2022 | Bentley Motors Japan

## フライングスパー Speed 発表 ベントレーのフルラインアップが完成



ベントレー モーターズはこのほど、フライングスパーシリーズで最も走行性能に優れたフライングスパー Speed を発表しました。これにより、ベントレーの新しいモデルラインアップが完成し、お客様にこれまで以上の選択肢を提供できることになりました。

### 驚異的なパフォーマンスと優れた操作性

フライングスパー Speed は、フライングスパー S の上位モデルという位置づけで、6.0リッター W12 ツインターボエンジンのみ選択可能。このエンジンが最高出力635PS、最大トルク900Nmを発生させ、最高速度333km/h、0-100km/h加速3.8秒というパフォーマンスを発揮します。フライングスパーのスタンダードなW12モデルは生産を終了するため、ベントレーを象徴するW12エンジンを搭載する最後のモデルの1つとなります。このエンジンに組み合わせられるトランスミッションは、ZF製の8速DCT。6速ギアで最高速度に達し、

7～8速ギアは高速道路でのクルージング時に使用することで燃費を向上させます。

シャシーシステムは、ベントレー ダイナミック ライドと電動AWS（全輪操舵）が標準装備となります。また、アクティブAWDシステムが通常時は後輪駆動となるように駆動力を配分しますが、システムがトラクションの変化を検知すると、前後両方のアクスルに駆動力を配分し、最大限のグリップを保つように作動します。

ブレーキはコンチネンタルGTと共通の直径420mmという世界最大級のスチール製ブレーキディスクとレッドキャリパーの組み合わせとなります。オプションでブラックキャリパーに変更することもできます。

### スポーティさと力強さを押し出した内外装

デザイン面では、フロントグリル、ヘッドランプ、テールランプがダークティント仕上げとなり、ダークでエッジの効いたスタイリングとなっ

ています。ホイールはSpeedモデル専用デザインの22インチ（ダークティント、グロスブラック、シルバーペイントの3種類の仕上げから選択可）で、オプションとしてSモデルに採用されている22インチ10スポークホイール（グロスブラック、パールブロードガーの2色から選択可）もご用意しています。このほか、フロントフェンダーの「Speed」バッジが存在感を際立たせ、ブラックライン スペシフィケーションとスタイリング スペシフィケーションもオプションで選択可能です。インテリアでは、乗員が触れる部分すべてにDinamica素材を使用したSpeed専用カラースプリットや、フェイスパネルの「Speed」バッジ、シートの「Speed」ロゴ刺繍など、スポーティなディテールが車内随所に配されています。メーターパネルのグラフィックも、ハイパフォーマンスを連想させる専用のものが採用されています。

日本への導入は2023年内で、価格は¥29,870,000（税込）を予定しています。日本導入に関する詳細については、ベントレー モーターズ ジャパンより順次ご連絡いたします。





## COMPETITOR INFORMATION



# マイバッハ100周年を記念した特別仕様車 メルセデス・マイバッハ GLS 600 4MATIC Edition 100

メルセデス・ベンツ日本はマイバッハブランドの創立100周年を記念した特別仕様車として、2022年7月29日にメルセデス・マイバッハ GLS 600 4MATIC Edition 100を発表しました。

### SUMMARY

- ・マイバッハ創立100周年を記念した特別仕様車として発表された“Edition 100”
- ・メルセデス・マイバッハ SクラスとGLSをベースにした世界限定各100台限定の特別仕様車
- ・メルセデス・マイバッハ GLSは世界限定100台のうち、日本市場向けに31台を発売
- ・メルセデス・マイバッハ Sクラス Edition 100の日本向け販売は現時点で発表なし
- ・部品供給不足のため注文受付を休止していたメルセデス・マイバッハ GLS 600 4MATICは注文受付を再開



### INTERIOR

- ・専用外装色と呼応したクリスタルホワイト/シルバーグレーのナッパレザーインテリアを採用
- ・インテリアトリムにはストライプデザインが特徴的なハイグロスブラックフローイングラインピアノラッカーウッドを採用
- ・ルーフライナーには華やかな明るさをもたらすクリスタルホワイトナッパレザーを採用
- ・“EDITION 100”のレタリングをあしらったマイバッハエンブレム入り専用パームレストを採用
- ・ホワイトレザーとピアノブラックを基調とした本革巻きウッドステアリングとブランドロゴ入りフロアマットを装備
- ・モノトーンで統一したインテリアにより、メルセデス・マイバッハとしての美しさと高級感を演出



### EXTERIOR

- ・特別仕様車専用のツートーンペイントとホイールデザインを採用
- ・上部をノーティックブルー、下部をハイテックシルバーに塗り分けた特別仕様車専用のツートーンペイント
- ・特別限定車専用デザインとなる23インチダークブラチナムディッシュプレートホイールを採用
- ・リアビラーに“EDITION 100”のレタリング入り専用マイバッハエンブレムを装着
- ・各部にクローム処理を施した専用エクステリアとツートーンペイントが爽やかで洗練された高級感を演出
- ・ホイールが標準のマルチスポークデザインからディッシュプレートデザインとなったことで大径ホイールの存在感を強調



### FEATURE

- ・3列7人乗りのGLSをベースに、2列4人乗りにしたことで後席の居住性と快適性を高めたメルセデス・マイバッハブランドの最高級SUV
- ・乗降時に自動で展開・格納されるアルミニウム製の電動ランニングボードを標準装備
- ・48V電気システムとISGを組み合わせた4.0L V型8気筒ツインターボエンジンは、最高出力558ps、最大トルク730Nmを発揮
- ・電子制御エアサスペンションのE-ACTIVE BODY CONTROLを標準装備。後席の乗り心地に焦点を絞った走行モードの「マイバッハ」モードを設定



### PRICE

メルセデス・マイバッハ GLS 600  
4MATIC Edition 100: 35,700,000円(税込)



## COMPETITOR INFORMATION

ニューモデル 発表：2022年6月24日 / デリバリー：未定

### フェラーリ 296GTS



- ・ミッドシップ2シーターの296GTBをベースにしたオープントップモデル
- ・リトラクタブルハードトップの開閉時間は14秒。45km/hまでは走行中も操作可能
- ・V6プラグインハイブリッドパワーユニットは最高出力830馬力。EV航続距離は25km

車両価格 (税込)	フェラーリ 296GTS:	43,130,000円
--------------	---------------	-------------

特別仕様車 受注開始：2022年6月17日 / デリバリー：未定

### ジャガー Fペース SVR エディション 1988



- ・1988年のル・マン制覇をはじめ多くのレースで成功を収めたグループC/IMSA GTPマシン「XJR-9」にインスピレーションを得た特別仕様車
- ・ベースモデルは550PSのV8スーパーチャージドガソリンエンジンを搭載する「F-PACE SVR」
- ・全世界394台限定。日本国内では20台を販売

車両価格 (税込)	ジャガー F-PACE SVR EDITION 1988:	17,600,000円
--------------	-------------------------------	-------------

ニューモデル 受注開始：2022年8月18日 / デリバリー：未定

### ポルシェ 911 GT3 RS



- ・レースカーと同様のセンターラジエーターとアクティブエアロダイナミクスの統合により、ダウンフォース量を増加
- ・ルーフより高い位置に設定されたリアウィングには、F1と同様に直進時にウィングをフラットにしてドラッグを低減できるDRSを採用
- ・4.0L 6気筒自然吸気エンジンは最高出力525PS

車両価格 (税込)	ポルシェ 911 GT3 RS:	31,340,000円
--------------	------------------	-------------

特別仕様車 発売：2022年7月28日 / デリバリー：2022年10月

### メルセデスAMG G63 Magno Hero Edition



- ・3種類のマットペイント外装色とブラックアクセントを施した特別仕様車
- ・カーボン/DINAMICA素材のAMGパフォーマンスステアリング、ダイヤモンドステッチ入りのナッパレザーシート、ナッパレザーダッシュボードを標準装備
- ・全国限定300台を販売

車両価格 (税込)	メルセデスAMG G 63 Magno Hero Edition:	28,600,000円
--------------	-----------------------------------	-------------

ニューモデル 受注開始：2022年9月2日 / デリバリー：未定

### BMW M4 CSL



- ・約100kgの軽量化と40馬力の出力向上により、0-100km/h加速3.7秒を実現
- ・ニュルブルクリンク北コースで7分20秒207のラップタイムを実現したBMW量産車最速モデル
- ・全世界1,000台限定。日本国内では25台を販売

車両価格 (税込)	BMW M4 CSL:	21,960,000円
--------------	-------------	-------------

特別仕様車 発売：2022年7月28日 / デリバリー：未定

### メルセデスAMG G63 Edition 55



- ・AMG 創立55周年を記念した特別仕様車。日本限定200台
- ・外装色は人気のオプシディアンブラック（限定100台）と有償で選択可能なオパリスホワイト（限定100台）の2種類
- ・特別仕様車専用22インチアルミホイールとAMGマットカーボンインテリアトリムを標準装備

車両価格 (税込)	メルセデスAMG G63 Edition 55:	27,500,000円
--------------	--------------------------	-------------

## MULLINER

英国のエリザベス2世女王陛下が9月8日、スコットランド・アバディンシャーのバルモラル城で崩御されました。あらためてご冥福をお祈りするとともに、英国王室の皆様にも哀悼の意を表します。

女王崩御以降、毎日のようにその功績を伝える報道が流れていますが、近年の映像や写真に1台の車両が映っていることに気づかれた方も少なくないことでしょう。その車両こそエリザベス女王専用の「ステートリムジン」で、2002年に女王即位50周年の「ダイヤモンド ジュビリー」に合わせてベントレー モーターズのマリナーが製造したものです。それ以来20年、女王はこの車とともに公務をこなされてきました。リテラー アカデミーニュースでも、これまで折に触れてコーチビルドの代表作の1つとして紹介してきました。

ステートリムジンのベース車両は、当時のフラッグシップモデルだったアルナージ。全長を80cm延長し、全幅も広く、全高も高くなったので、アルナージの面影はあまり残っていません。女王および英国王室からの要望は、車外から女王の姿がよく見えるようにすることでした。そこでマリナーのチームが採用したのが「パノラミック グラスハウス」というコンセプトで、車外からの視認性をできる限り高めています。また、全高を高くしたのは、女王が乗り降りする際に身をかかめることなく、君主としての威厳を保っていただくためでした。



## エリザベス女王とともに歩んだ20年 で公務に欠かせなかったステートリムジン

リアシートのサイズや配置については、女王とまったく同じ身長モデルを使って決定し、ハンドバッグの収納スペースも女王愛用のハンドバッグの寸法に合わせて設計されています。リアドアはヒンジを後部に設けて観音開きとし、ルーフには紋章やペナントを取り付けるマウントを設置しています。女王と運転手を守るため防弾・防爆仕様で、タイヤもアラミド繊維で強化した特注品です。毒ガスによる攻撃も想定し、気密性を高めた仕様となっています。

女王とともに20年の歴史を歩んだステートリムジンは、ベントレーとマリナーのコーチビルドにとって、この上ない誇りであることに間違いありません。



ベース車両となったアルナージ。ステートリムジンにその面影はほとんどありません。





# エポックメイキングなベントレー 戦前編

1919年にW.O.ベントレーが創業したベントレー モーターズには、現行モデルにも大きな影響をもたらしたエポックメイキングなモデルが多数存在します。  
今回は、戦前のモデルの中から、皆様に特に覚えておいていただきたいモデルを紹介します。

## 3 Litre [EXP 2]

### すべてはここから始まった

創業者W.O.が掲げた「速い車、良い車、そのクラスで最高の車を作る」という哲学を具現化したのが3リッターです。1921年から1929年まで生産され、1924年と1927年のル・マン24時間レースでの優勝をはじめ、数々のレースで勝利を収めました。ベントレー本社が所有するEXP 2は、試験的に製造された2番目の3リッターであり、現存する最古のベントレーとしても知られています。1927年のル・マンでは、深刻なダメージを負いながらも優勝した3リッターの7号車（Old Number 7）を、祝勝会が行われたホテル「ザ・サヴォイ」に搬入し、ともに勝利を祝ったという逸話も残っています。



## Speed 6

### ル・マン黄金時代の象徴

6 1/2リッターの高性能バージョンであるスピード6は、ベントレー史上最も成功したレースカーです。ウルフ・バーナート、ヘンリー・ティム・バーキン卿、グレン・キッドソンによって1929年と1930年のル・マンを連覇したモデルということで、ベントレーのル・マン黄金時代を象徴する車として語り継がれています。コンティニューエーションシリーズ第二弾ではスピード6の“新車”が誕生することになっています。スピード6はまた、ウルフ・バーナートが1930年に、コート・ダジュール/カレー間を結ぶ列車“ブルートレイン”と競争して勝利するなど、伝説の多いモデルとしても知られています。



## 4 1/2 Litre

### 記録よりも記憶にも残る名車

多くのエンスージアストにとって、「プロワー」の愛称で知られる4 1/2リッターは、戦前のベントレーのレースカーの象徴となっています。皮肉なことに、クリックウッド時代のベントレーの中でも最も競争力が低く、W.O.もスーパーチャージャー搭載のこの車を開発し続けることには反対していました。しかしながら、この車を愛したベントレー・ボーイズの1人「ヘンリー・ティム・バーキン卿」のイメージとも相まって、今でも多くのベントレーファンにとって特別なモデルであり続けています。往年の名車を“新車”として蘇らせるコンティニューエーションシリーズ第一弾にこのモデルが選ばれたのには、こういった背景があるからです。



## 8 Litre

### W.O.が自ら設計した最後のモデル

8リッターは、W.O.ベントレーが自ら設計した最高傑作のグランドツアラーです。1930年に発売されたこのモデルは、当時のベントレーの中で最も大型で、最もラグジュアリーな車でした。発売のタイミングが世界大恐慌の時期と重なったため、高級車の需要は低迷し、ベントレー モーターズも経営難に陥っていたことから、8リッターは1930年から1932年にかけてわずか100台が製造されただけでした。W.O.自身もこの車を所有し、英国内やヨーロッパ各地を走行したと伝えられています。W.O.が所有していたこの車両は、2006年にベントレー モーターズの所有となり、CEOの社用車として大切に保管されています。



### 戦前のモデルから受け継がれる伝統のモチーフ

ベントレーの現行モデルに採用されているモチーフには、戦前のレースカーに起源を持つモチーフが採用されています。

その1つがマトリックスグリル。これは当時のレースカーに、前走車が跳ね上げた飛び石からボディ前面にむき出しになっていたラジエーターを守るメッシュが用いられたことに由来しています。もう1つが丸形のヘッドランプです。当時のランプの技術では光量が足りず、大型の丸形リフレクターを用いて補っていたことに由来しています。





## フライングスパー マリナーで ブラックライン スペシフィケーションが選択可能に

ベントレー モーターズはこのほど、フライングスパー マリナー向けのオプションに、ブラックライン スペシフィケーションを追加しました。コンチネンタルGT マリナーを購入されるお客様の20%以上がブラックライン スペシフィケーションを選択されるほどの人気オプションであることから、フライングスパー マリナーへの導入が決定しました。これにより、コンチネンタルGT、コンチネンタルGTC、フライングスパーにマリナー モデルのブラックライン スペシフィケーションが揃ったことになります。ブラックライン スペシフィケーションを選択されるお客様は、明るいトーンのボディカラーであればコントラストを際立たせ、暗いトーンのボディカラーであればエクステリアのディテールをエレガントに溶け込ませることができるようになります。

コンチネンタルGT マリナーと同様に、フライングスパー向けのブラックライン スペシフィケーションでも、エクステリアのクロームのディテールがすべてグロスブラックに変更されます（前後のウイングド‘B’



バッジとBENTLEY」レタリングを除く）。サテンシルバーのドアミラーカバー上部は、グロスブラックのベルーガで仕上げられます。もちろんマリナー モデルの特徴であるマトリックス フェンダーベントもグロスブラックとなり、クロームの「MULLINER」ロゴを一層際立たせます。ラジエーターグリルはブラックのままで、3Dデザインを施したダブルダイヤモンドのエッジが強調されますが、ローワーバンパーグリルはブラックに変更されます。ホイールは、コントラストを際立たせるポリッシュ仕上げの「ポケット」を備えたグロスブラックの22インチマリナーホイールで、クロームリング付きのセルフレベリングバッジが採用されています。



### EVENT

## モントレーで発表された ブランドパートナーの新製品



8月に開催されたモントレー カー ウィークでは、ベントレーはバトウールを発表するなど大いに盛り上がったイベントとなりました。この盛り上がり華を添えたのが、ブランドパートナーの新製品の数々でした。

ホーム オブ ベントレーの屋外では、ハリウッドで活躍する著名な作曲家兼音楽プロデューサーのスティーブ・マツァーロ氏が作成した特注ミュージックトラックを、フライングスパー ハイブリッドのNaimオーディオシステムを使用して再生するデモンストレーションが行われました。屋内では、ラグジュアリー リビング グループとの提携により、大胆なデザインと厳選された素材を組み合わせで作られたベントレー ホーム コレクションの家具を展示しました。来場したお客様には、ベントレー レジデンス マイアミのVRツアーにもご参加いただきました。テラスではブランドパートナーのザ・マッカランによる特別テイスティングが行われ、ベントレーとのコラボレーション第1弾となるザ・マッカラン・ホライズンの公式発表も行われました。

### MULLINER

## マリナーでアートの可能性を追求する



ベントレーのビスポーク部門であるマリナーへの関心と需要を喚起すべく、新しいキャンペーンが始まっています。リテラー マーケティングニュースのウェブサイト（英語）から、新しいパンフレットやお客様とのコミュニケーションをサポートする各種素材がダウンロードできます。マリナーの製品はリテラーの皆様にとって収益増に寄与するものです。また、マリナーのユニークな製品をお客様にお勧めいただくことは、競合ブランドとの差別化を打ち出す手法としても有効です。

新しいパンフレットは、インタラクティブでモバイル機器で閲覧することを前提に作られています。マリナーで実現できることを紹介する内容なので、既納顧客や見込み客に展開してください。キャンペーン用の素材としては、ローンチスタンダード、画像、リテラー用ダイレクトコミュニケーションツール（eDMおよびWhatsAppテンプレート）、ソーシャルガイドラインなどをご用意しています。

これらのツールを活用いただき、お客様にマリナーを積極的にご紹介くださいますよう、お願いいたします。

キャンペーン概要およびダウンロードはこちらから



# クルマを取り巻く騒音規制

## R51-03とR117-02

燃費や騒音、安全など、クルマには様々な規制が存在します。かつて、そうした規制は国や地域ごとに設定されていました。しかし、自動車産業のグローバル化の進行にあわせ、規制を統一しようという動きがあります。そんな中、最近、話題を集めているのが騒音規制です。どのような規制があるのかを紹介します。



### 世界の規制の調和を目指す国連のWP29

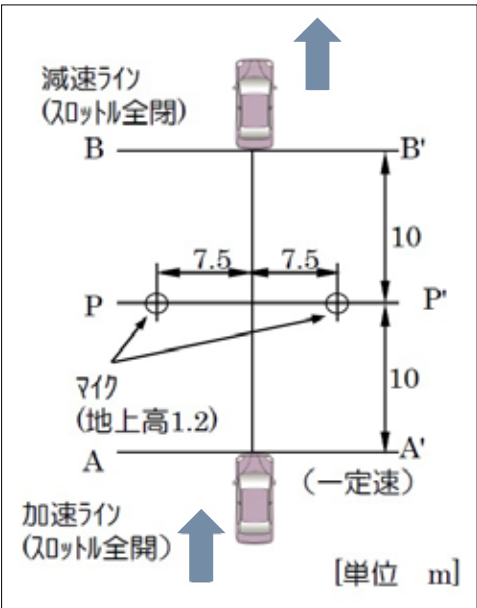
今、クルマという製品は世界各地で販売されています。そこで、発売する国や地域ごとに、安全や燃費、騒音規制などがバラバラだと、クルマを作るのも、登録するのも非常に手間がかかります。そこで生まれたのが国連の自動車基準調和世界フォーラム「WP29」です。欧米をはじめ日本や中国、韓国などが参加しており、世界基準を作成しています。これまで排気ガス規制や燃費、安全基準などが定められています。そんな中で、騒音関連となるのが四輪車の走行騒音に係る新基準「UN Regulation No.51 03Series」（通称：R51-03）と、タイヤ単体騒音規制に係る国際基準「UN Regulation No.117 02Series」（通称：R117-02）です。

### 走行時の騒音を外から計測する「R51-03」規制

国際的な騒音規制の基準となるのが「R51-03」です。測定方法はタイヤと同様に、定められたコースを走り、そのときの騒音を測定します。ただし、1回ではなく、アクセル全開での走行と定常走行など複数走行を実施。複数データと各国の市街地の加速状態調査の結果を組みこんだ係数をかけあわせて結果とします。規制値は、出力と車重から導き出されるPMR（パワースレシオ）ごとに異なり、高性能なクルマほど規制が緩くなっています。また、フェーズ1からスタートし、フェーズ3まで徐々に規制を強化してゆくのも特徴です。

日本においては、フェーズ1が2016年、フェーズ2が2022年秋の日本車の新型車から導入されます。そして、最も厳しいフェーズ3は、「あまりにも厳しくて、EVでさえクリアできないのでは」と言われていましたが、近年の技術進歩を鑑みて、2024年から適用される予定となりました。フェーズ3が導入されると、どれほどのハイパフォーマンスカーであっても、2021年までの日本のコンパクトカーと同様であることが求められます。

ちなみに輸入車はフェーズ2に関しては除外でした。ただし、「R51-03」は世界的なものなので、いつかは輸入車も適用対象になることでしょう。



定められた区間を走行し、走行ラインから7.5m離れた2つのマイクで測定します。

### タイヤからの騒音を規制する「R117-02」

タイヤの発する騒音の規制が「R117-02」です。これは、エンジンを停止して惰行させたクルマでタイヤの発する騒音を測定して、基準内であることを求める規制です。タイヤの幅や路面状況によって数値は変化しますが、「R117-02」導入前の規制と比べると、最大4dB程度の規制強化となりました。欧州では2012年から順次導入されており、日本でも2018年の新型車から日本車・輸入車に適用され、輸入車の継続生産車でも2022年4月から適用となっています。



タイヤ単体から発生する騒音を規制する「R117-02」。日本ではすでに導入済みです。

#### ■「R51-03」による騒音規制

カテゴリー	パワースレシオ (PMR) ※	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
M1 (9席以下の乗用車)	PMR120以下	72dB	70dB	68dB
	PMR121～160以下	73dB	71dB	69dB
	PMR161以上	75dB	73dB	71dB
	PMR201以上 (乗員4名・座面高450mm未満)	75dB	74dB	72dB

※ PMR =  $kW / (車両重量 kg + 75kg) \times 1000$

#### ■騒音レベルの目安

騒音の大きさ	音の大きさの具体例
100dB	電車が通るときガード下、地下鉄の構内
90dB	カラオケ音（店内）、犬の鳴き声（直近）
80dB	走行中の電車の中、救急車のサイレン（直近）
70dB	高速走行中の自動車の車内、セミの鳴き声（直近）
60dB	走行中の自動車の車内、普通の会話